

第4節 海浜青年の家の主催事業

1 レクリエーションリーダー研修会

- (1) 趣 旨
現代社会において、レクリエーションの必要性がますます認識され、リーダーの養成が重要視されている。余暇を有意義に活用し、学校、職場、グループ活動をより効果的にするために新しい時代に対応できるレクリエーションの理論と技術を学習し、そのリーダーの養成と振興を図る。
- (2) 期日・会場・参加者
① 期 日 昭和52年5月13日～15日 2泊3日
② 会 場 福島県海浜青年の家
③ 参加者 学校教育関係者、社会教育関係者、青年団体・婦人団体・その他地域・職場・グループ等の関係者 40名
- (3) 講 師
福島市吾妻公民館長
(福島県レクリエーション指導者クラブ理事) 笠原 憲 昭
郡山市教育委員会社会教育課社会教育主事
(福島県レクリエーション指導者クラブ事務局長) 土田 功
福島県海浜青年の家 職 員
- (4) 研修内容
① 講 義 「現代社会とレクリエーション」
「レクリエーション運動とリーダーのあり方」
② 実 技 「つどいの演出」「ゲーム指導法」
「フォークダンスの指導法」
「クラフト」
③ 演 習 「キャンドルサービスの持ち方」

2 野外活動リーダー研修会

- (1) 趣 旨
野外活動に必要な理論と実技について研修し、青少年に自然に親しみ自然を愛する心を育てるためのリーダーの養成と野外活動の振興を図る。
- (2) 期日・会場・参加者
① 期 日 昭和52年6月9日～11日 2泊3日
② 会 場 福島県海浜青年の家
③ 参加者 学校・社会教育関係団体・企業・グループ等のリーダー 41名
- (3) 講 師
福島大学助教授 佐藤 克 己
福島県教育庁社会教育課社会教育主事 菊 地 理 夫
福島県海浜青年の家 職 員
- (4) 研修内容
① 講 義 「野外活動の意義」
「オリエンテーリングの理論と大会の企画・運営」
「キャンプ生活について」
② 実 技 「オリエンテーリング」

3 親と子 海浜のつどい

- (1) 趣 旨
親と子で大自然に親しみながら共同宿泊生活を通じ、海浜でのレクリエーションなどに楽しいひとときをおくって健康の増進と望ましい親子関係を深める。
- (2) 期日・会場・参加者
① 期 日 昭和52年7月30日～31日 1泊2日
② 会 場 福島県海浜青年の家
③ 参加者 親と子(小・中学生) 地域の子供のグループ(成人1人と子供3人以内) 131名
- (3) 講師・助言者
福島県海浜青年の家 職 員
- (4) 研修内容
○海 水 浴
○砂の芸術
○キャンプファイヤー
○レクリエーション交歓会

4 集団宿泊指導担当者研修会

- (1) 趣 旨
学校教育と社会教育の連携を具体的に推進し、児童・生徒等の全人的な育成に資するため青年の家における集団宿泊指導の効果的な運営・内容・方法について研修する。
- (2) 期日・会場・参加者
① 期 日 昭和52年10月19日～21日 2泊3日
② 会 場 福島県海浜青年の家
③ 参加者 小学校・中学校・高等学校及び社会教育関係団体の集団宿泊指導担当者 42名
- (3) 講師・助言者
国立岩手山青年の家所長 黄川田 昌 弘
福島県教育庁社会教育課社会教育主事 七 島 征
福島県海浜青年の家 職 員
- (4) 事例発表者
いわき市立植田小学校教諭 佐藤 敬 一
伊達郡伊達町立伊達中学校教諭 佐藤 玲 子
福島県立須賀川高等学校長沼分校教諭 紺野 光 夫
福島県立小高工業高等学校教諭 井上 精 三
- (5) 研修内容
① 講 義 「在学青少年と集団宿泊指導」
「青年の家における研修について」
○教育課程上の手続き
○利用申請の手続き
○研修プログラム例
② 事例発表 「青年の家における集団宿泊指導について」
③ 研究協議
ア 集団宿泊研修の意義
イ 集団宿泊研修の企画と展開
④ 理論と実技 「オリエンテーリング」
「ゲームとフォークダンス」